

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第1年次）（概要）

1 研究開発課題名	九州から届け！！「福祉」南風プログラム開発 ～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～				
2 研究の概要	生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーになることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発をとおして、社会福祉の発展を担う職業人を育成し、『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として福祉力を発信していく。プログラムでは4つのプロジェクト活動（『先進プロジェクト』『連携プロジェクト』『マインド育成プログラム』）をとおして、先進的な専門性を高め、豊かな創造性・人間性を身に付け、確かな主体性を育むことで社会福祉の発展を担う職業人を育成する。このような取組を通して、ジェネラリストの視点（高度で総合的な知識・技術と経験、マネジメント能力と改革・改善力）をもつ社会福祉リーダーとしての意識醸成につなげていく。				
3 平成30年度実施規模	福祉科1年生（80名）を対象として実施した				
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="183 1115 343 1973">第1年次</td> <td data-bbox="343 1115 1396 1973"> <p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害時における福祉支援について、講義、視察等から学ぶことで、介護福祉士に求められる役割を理解する。 ②介護ロボットや福祉用具等についての講義や、ロボットメーカー、先進施設等の視察等から、その現状と意義について理解する。 ③コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性について考える。 ④先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を身に付け、適切な認知症介護に活用できる力をつけることで、介護実習等で介護支援技術の実践力を向上させる。 ⑤「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。 <p>■マインド育成プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 ②認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。 <p>■発信力プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1973 343 2054">第2年次</td> <td data-bbox="343 1973 1396 2054"> <p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事例に基づいた災害時における体験学習を通して、介護者や地域等の課題を </td> </tr> </table>	第1年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害時における福祉支援について、講義、視察等から学ぶことで、介護福祉士に求められる役割を理解する。 ②介護ロボットや福祉用具等についての講義や、ロボットメーカー、先進施設等の視察等から、その現状と意義について理解する。 ③コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性について考える。 ④先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を身に付け、適切な認知症介護に活用できる力をつけることで、介護実習等で介護支援技術の実践力を向上させる。 ⑤「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。 <p>■マインド育成プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 ②認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。 <p>■発信力プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。 	第2年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事例に基づいた災害時における体験学習を通して、介護者や地域等の課題を
第1年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害時における福祉支援について、講義、視察等から学ぶことで、介護福祉士に求められる役割を理解する。 ②介護ロボットや福祉用具等についての講義や、ロボットメーカー、先進施設等の視察等から、その現状と意義について理解する。 ③コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性について考える。 ④先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を身に付け、適切な認知症介護に活用できる力をつけることで、介護実習等で介護支援技術の実践力を向上させる。 ⑤「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。 <p>■マインド育成プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。 ②認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。 <p>■発信力プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅰ「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。 				
第2年次	<p>■先進プロジェクト</p> <ol style="list-style-type: none"> ①事例に基づいた災害時における体験学習を通して、介護者や地域等の課題を 				

	<p>知ること、解決を図る意欲を向上させる。</p> <p>②介護ロボット等を活用した「抱え上げない介護技術」を習得し、介護福祉施設で実践することで、介護技術力を向上させる。</p> <p>③福祉先進国(デンマーク)を視察することで、高齢者の福祉と自立を支援する政策や、アクティブ・エイジングのプログラム等への理解を深め、これからの社会福祉の発展を担う人材としての資質を高める。</p> <p>④「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術での場面を想定して、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>⑤医療・福祉英語検定(4級)合格を目指す。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する利用者の「個別援助計画Ⅰ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、利用者のニーズに応じた支援の方法に気づくなど発想力を身につける。</p> <p>②地域の高齢者を対象に校内でデイサービスを実施することや、社会福祉協議会等からの講義等を通して、地域の福祉課題について理解することで、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割について考える。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。</p> <p>②認知症キャラバン・メイトを目指して、認知症サポーター養成講座に参加することで、校内・地域の認知症理解度を高めるための工夫を考える。</p> <p>■発信力プロジェクト</p> <p>①『福祉(しあわせ)』南風プログラム』をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。</p> <p>②『福祉(しあわせ)』南風プログラム』の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につけていく。</p>
第3年次	<p>■先進プロジェクト</p> <p>①介護ロボット等の実践から、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性について研究を深め、発表をする。</p> <p>②「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術の場面を用いて、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>③大分国際車いすマラソンでのボランティア活動を通して英語力を活用し、実践力を高める。</p> <p>④医療・福祉英語検定(3級)合格を目指す。</p> <p>⑤大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」「海外の福祉事情」等を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する利用者の「個別援助計画Ⅱ」を大学生との多職種協働学習で作成するで、個別援助に係る課題解決力を身につける。</p> <p>②地域の福祉課題の解決策を考え、地域の居場所づくりを校内で実践することで、地域での介護福祉力を高めるとともに観察力、発想力、課題解決力を身につける。</p> <p>③福祉系高校生との交流学習会で、各校の地域活性化の取組を発表、交流、外部講師による講演・講評を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に</p>

付け、将来のネットワーク作りを見通した交流活動とする。

■マインド育成プロジェクト

①死生観・倫理観についての講義、演習等から終末期のこころのケアを理解する。

②認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、認知症予防体操を企画・開発し、校内・地域での認知症サポーター養成講座で普及活動を行う。

■発信力プロジェクト

①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。

②南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」を企画・運営することで、災害時の福祉支援力を高める。

③認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、学んできた認知症ケアメソッドを活用して、地域の小中学校や公民館での南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営し、伝える力を身につける。

④「おおいたの福祉力」を提言するために、各プロジェクトの取組をまとめ、提言集を作成し、連携機関等へ配布する。

⑤『「福祉（しあわせ）』南風プログラム』をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。

⑥『「福祉（しあわせ）』南風プログラム』の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につける。

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ） なし

○平成30年度の教育課程の内容 別紙資料

○具体的な研究事項・活動内容

■先進プロジェクト 先進的な専門性（幅広い知識・高度な技能）

1. 災害時の福祉支援力体験学習

① 災害時における福祉支援について学ぶ①（外部講師による講義）

目的：平成29年の九州北部豪雨災害の際に、被災者支援や復興支援に携わった方からお話を聞くことによって、被災地における復興・復旧活動への理解を深め、介護福祉士として求められる役割に気付かせる。

日時：平成30年7月12日（木）

講師：ひちくボランティアセンター（大分県日田市）スタッフ 河津 由美 氏

内容：災害支援についての講義・ワークショップ

場所：大分南高校 地域交流実習室

② 災害時における福祉支援について学ぶ②（大分県日田市 現地訪問）

目的：平成29年の九州北部豪雨災害被害の現場を、実際に訪問し、被害に遭われた方々の現状を知ることによって、被災地における復興・復旧活動への理解を深め、介護福祉士として求められる役割に気付かせる。

日時：平成30年9月5日（水）8：00～16：00 貸し切りバス使用

内容：ひちくボランティアセンタースタッフの方の指導による被災地の視察及びボランティア活動

場所：大分県日田市小野地区公民館、大鶴地区公民館

③災害時における福祉支援について学ぶ③（外部講師による講義）

内 容 : 熊本地震の際に、実際に大学で避難所運営をされた先生より、災害弱者の支援について、現状を知り、介護福祉士として求められる役割について考える。

日 時 : 平成30年10月9日（火）

1年4組 10:30~12:20 1年5組 13:05~14:55

講 師 : 熊本学園大学 社会福祉学部 准教授 黒木 邦弘 氏

内 容 : 災害時の災害弱者の支援の現状と課題について

場 所 : 大分南高校 地域交流実習室

④災害時における福祉支援について学ぶ③（熊本県南阿蘇村 現地訪問）

内 容 : 平成28年の熊本大地震被害の現場を実際に訪問し、被害に遭われた方々の現状を知ることによって、被災地における復興・復旧活動への理解を深め、介護福祉士として求められる役割に気付かせる。

日 時 : 平成30年11月19日（月）8:00~16:10 貸し切りバス使用

内 容 : 被災者等との懇談及び被災地の状況視察

場 所 : 熊本県南阿蘇地域（南阿蘇社会福祉協議会）

2. 介護ロボット等の有用性研究

①介護ロボットの意義と現状について学ぶ（外部講師による講義）

目 的 : 介護ロボットや福祉用具等の役割や機能を理解するとともに、実際介護ロボット等を活用した介護技術力を向上させ、その有用性について研究を深める。

日 時 : 平成30年10月29日（月）

1年4組 10:30~12:20 1年5組 13:05~14:55

講 師 : 大分県社会福祉介護研修センター 福山 慧 氏

レイトロン（株） 宮崎 善行 氏

内 容 : 介護ロボットの意義と現状について講義

介護ロボットの活用方法 講義、実習

場 所 : 大分南高校 地域交流実習室

②コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」の介護実習施設での実践

目 的 : 介護施設でコミュニケーションロボットをどのように活用することができるか、実践を通して研究する。

実習時期 : 11月1日~9日、12月6日~14日

③介護ロボットの研究視察①（介護研修センター、大分大学理工学部）

目 的 : 介護ロボットや福祉用具等の役割や機能を理解するとともに、実際介護ロボット等を活用した介護技術力を向上させ、その有用性についての研究を深める。

日 時 : 平成31年1月17日（木） 9:30~15:00 貸し切りバス使用

内 容 : 介護ロボットの研究視察

場 所 : 大分県社会福祉介護研修センター

大分大学 理工学部創生工学科福祉メカトロニクスコース

④介護ロボットの研究視察②（大分ロボケアセンター、太陽の家）

日 時 : 平成31年2月12日（火）1年4組、2月13日（水）1年5組

内 容 : 施設見学及び介護ロボット装着体験

場 所 : 社会福祉法人 太陽の家 大分ロボケアセンター

3. 認知症ケアメソッドの研究

①認知症サポーター養成講座受講

日 時 : 平成30年10月18日（木）

講師：竹中・判田地域包括支援センター 職員

②映画「ケアニン」鑑賞、上映

日時：平成30年11月13日(火) 鑑賞 全校生徒 講演 福祉科1～3年

講師：映画プロデューサー 山国秀幸氏

③講演「認知症の当事者に学び、共に築く社会を」

日時：平成30年12月19日(水)

講師：大牟田市認知症ライフサポート研究会 代表 大谷るみ子 氏

4. 「Welfare English」の習得

介護支援の場面を想定して「コミュニケーション英語」の授業で「Welfare English」を習得

■マインド育成プロジェクト 豊かな人間性（多様性を受容できる力・人間関係調整力）

1. サーバントリーダーシップ育成セミナー

日時：2月下旬～3月上旬 1クラス2時間

講師：地域、施設で活躍する介護福祉士

■発信力プロジェクト

1. 南高生地域福祉講座

①「コミュニケーションロボット活用講座」実施

日時：平成31年2月18日(月) 大分南高校ネットワーク協議会

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

・「南高生地域福祉講座」の取組としては「コミュニケーションロボット活用講座」を平成31年2月18日に実習施設職員対象に実施し、介護ロボットの意義や施設現場での有効な使用方法を提案する。

・「発信力プロジェクト」の取組として、以下のような各広報媒体を活用して研究成果を発信して普及活動を継続していく。

広報誌 教育だよりおおいた ・SPHとは ・SPHにおける大分南高校福祉科の研究概要について紹介

Youtube 教育庁チャンネル ・SPH研究に係わる授業（実習）

テレビ 県政広報番組（特番）「人を大事にし 人を育てる『教育県大分』の創造」

県内産業教育の人材育成に係わる分野の中で、農業・工業・福祉を学ぶ高校生と、卒業後活躍が期待される卒業生の職場での姿を取材（福祉科では実習風景やSPHの取組を紹介）

○実施による効果とその評価

文科省共通的な評価指標による調査結果平均値～各事業後に実施（8回）～

1. 本時の授業の積極的に取り組むことができ、福祉の勉強をさらに頑張ろうと思った

思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
68.6%	29.4%	2.0%	0.0%

2. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった

思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
47.4%	49.2%	2.7%	0.8%

3. 今回の学習を通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながった

思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
68.5%	30.4%	1.1%	0.0%

4 自分の将来の職業に対する意識が高まった

思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない
33.1%	47.6%	16.1%	3.2%

(選んだ理由)

- ・私は普通科志望だったので、入学前は福祉に全然興味がなかったけれど、授業や活動をしていくうちに福祉の職に就いてみたいと思い始めました。それと、せっかく学んだ福祉の知識や技術を今後役に立てたいと思っているからです。
- ・介護実習で職員さんの行動を見たりして、私もこんな風に支援できるようになりたいと感じたからです。また、SPHの授業でも、支援する側が利用者さんにどのように接することが大切かなど学ぶことができ、将来私もできるようになりたいと感じたからです。

・評価指標1からは、各取組を通して、生徒の福祉に対する学習意欲はとて高くなっていることが伺える。

・評価指標2では、他の指標と比較すると「思う」を答える生徒が少ない。これは、介護福祉士に求められる専門性や行動力、実践力などの資質・能力の必要性、レベルの高さを実感し、自らを客観的に評価した結果と考える。

・評価指標3からは、各取組を通して多くのことを学び、自信につながったのではないかと考える。

・評価指標4については「思う」「どちらかと言えば思う」を選ぶ生徒が、他の指標に比べると少ない。しかし「選んだ理由」の記入を見ると、福祉に特に興味関心のなかった者が、多数、関心を持ち始めていることが分かった。本事業での様々な体験を通して、将来地域福祉リーダーとしての資質を身に付け、活躍したいと意欲溢れる者を今後も育成していきたいと思う。

5 1年間のSPH関係の授業をとおしての生徒の感想

・被災地に直接行ったりすることができたおかげで、現地の人々の想いを感じることができ、私にはどのようなことが出来るかなどを考えることができました。また、介護ロボットの見学、体験などを通して、これからの介護にどうやって活かしていき、今よりもっとより良い介護にできるかどうかを理解し、考えることができたことが貴重な体験でした。

・視察や貴重な体験を含めて、もっと多くのことを細かく学びたいという意識が生まれました。現場の方が何を求めているかを聞くことで、介護福祉士として必要な知識や技術に気付くことが出来たと思います。そして、将来についても深く考えることが出来るようになったと思います。これからも、たくさん学んでいきます。

○実施上の問題点と今後の課題

・1年間を通して、福祉科の教員は確実に生徒の福祉に対する意識は変化し、成長していると感じている。しかし、それを成果として表す指標の開発が不十分である。今後、生徒の成長や変化を客観的に評価する方法や指標を開発していく。

・平成30年度取組を新聞や広報紙等を活用して発信してきた。しかし今後は、福祉科のみならず、普通科の生徒、教員にも生徒の成長や変化、福祉教育の魅力が理解されるような研究活動の工夫・改善を図る。

・将来の職業に対する意識がまだ高まっていない生徒に、今後本事業での取組を通して、福祉関係の職業の魅力を理解し、将来地域福祉のリーダーとなるための資質・能力を積極的に身に付け、それを発信できるような人材を育成する研究活動の工夫・改善を図る。